

特別展

# 三雲祥之助

1989年8月8日[火]—9月24日[日]



「首をかしげる裸婦」 油彩 1981年 25号F

開館時間=午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

休館日=8月13日(日)・14日(月)・21日(月)・28日(月)

9月4日(月)・10日(日)・11日(月)・18日(月)・19日(火)

入館料=一般 個人200(160)円 小・中学生 個人100(80)円

※( )内は20人以上の団体割引料金

## 渋谷区立松濤美術館

渋谷区松濤2-14-14 TEL.465-9421 渋谷駅下車徒歩15分 神泉駅下車徒歩5分





▲「マジョルカ島、パルマの港」油彩、1932年、10号F

▼「画室」油彩 1953年 30号F



三雲祥之助は明治35年京都に生まれ、昭和57年に80歳の生涯を終えました。ヨーロッパで本格的に油絵を学んだ三雲は、帰国後、春陽会などを中心に意欲的に作品を発表し、多彩な制作活動を展開しました。また、武蔵野美術大学教授として後輩の育成に尽力し、その高い教養と清純な人柄によって、教育者としても大きな功績を残しました。更に、画業に励むかたわら、旅行記、美術論などの著述をもち、美術雑誌にも多くの評論を寄せて、多方面の分野で活躍しました。

三雲の画業は、10年に及ぶ滞欧生活から始まります。フランス、スペインなどで制作した風景画、人物画などは、堅牢な写実をもとに、しっとりとした情緒を込めています。三雲は若い女性の美しさや室内と静物など、なにげない題材を愛し、それらの美しさを一貫して描き続けました。特に、中期には、強固な造形感、色彩の解放といった立体派や野獣派のスタイルや方法論をも自らの絵画表現の課題として真剣に取り組み、[パリの審判]や[家造り]といった実験的な作品を生み出しました。晩年には、裸婦やバラなどをニュアンスに富んだ色彩と柔らかな筆致で、華やかにうたいあげています。

本展では、武蔵野美術大学所蔵作品を中心に、油彩作品約80点に、彫刻、デッサンなどを加えて、代表作約90余点を陳列し、三雲祥之助芸術の全貌を回顧します。



## 講演会

- 1989年8月12日(土) 午後2時～  
対談「三雲祥之助の人と世界」  
小川マリ氏、桑原住雄氏(美術評論家)
- 1989年9月2日(土) 午後2時～  
「三雲祥之助とその時代」  
針生一郎氏(美術評論家)

## 映画会

- 1989年8月20日(日) 午後2時～3時  
「アントニオ・ガウティ」(72分)
- 1989年9月17日(日) 午後2時～3時  
「コロ・ミレー・クールベ」I、II (60分)

## 美術相談

- 1989年8月20日(日) 午後1時～4時  
講師 宮田翁輔(洋画) 荒井朝吉(日本画)
- 1989年9月3日(日) 午後1時～4時  
講師 西嶋俊親(洋画) 遠藤原三(洋画)

